

遺伝子組換え実験等計画申請書  
(機関承認実験)

令和 年 月 日

室蘭工業大学長 殿

実験実施機関	所属部局の 所在地	(〒 )
	所属部局名	
	実験管理者 職・氏名	

下記の遺伝子組換え実験等の実施について承認を申請します。

記

番号	遺伝子組換え実験等の課題名	文書番号	承認日

安全主任者確認覧(記名捺印)

事務連絡先	名 称	
	所 在 地	(〒 ) TEL FAX E-mail
	担当者氏名	

注1 申請書は実験課題ごとに提出すること。

注2 遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律第十二条に基づき、第二種使用等に当たって執るべき拡散防止措置が主務省令により定められている場合は機関承認実験に相当し、それ以外の場合は大臣確認実験に相当する。

注3 最下段の「事務連絡先」は実験管理者と連絡先が異なる場合に記入し、両者が同一の場合は記入不要。

遺 伝 子 組 換 え 実 験 等 計 画 書 (第二種使用等)

令和 年 月 日

申請の種類 (注 1)	実験の区分 (注 2)	物理的封じ込め (注 2)	公的経費 (注 3)
<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 継続 ( 年 月 号 ) <input type="checkbox"/> 変更 ( 年 月 号 )	1 <input type="checkbox"/> 微生物使用実験	<input type="checkbox"/> P1 <input type="checkbox"/> P2 <input type="checkbox"/> P2	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 文科省 科研費 <input type="checkbox"/> その他 ( ) <input type="checkbox"/> 無
	2 <input type="checkbox"/> 大量培養実験	<input type="checkbox"/> LSC <input type="checkbox"/> LS1 <input type="checkbox"/> LS2	
	3 <input type="checkbox"/> 動物使用実験 (1) <input type="checkbox"/> 動物作成実験 (2) <input type="checkbox"/> 動物接種実験	<input type="checkbox"/> P1A <input type="checkbox"/> P2A <input type="checkbox"/> P3A <input type="checkbox"/> 特定飼育区画	
	4 <input type="checkbox"/> 植物等使用実験 (1) <input type="checkbox"/> 植物作成実験 (2) <input type="checkbox"/> 植物接種実験 (3) <input type="checkbox"/> きのこ作成実験	<input type="checkbox"/> P1P <input type="checkbox"/> P2P <input type="checkbox"/> P3P <input type="checkbox"/> 特定網室	
	5 <input type="checkbox"/> 細胞融合実験	※大臣確認が必要	

実験実施機関	所在地	(〒050-8585) 北海道室蘭市水元町 27 番 1 号		
	名称	室蘭工業大学理工学部 学科 コース		
	実験実施学科等の 学科長等氏名			
課題名				
実験実施期間 (注 4)		令和 年 月 日 から 令和 年 月 日 まで		
実験管理者	所属部局の所在地	(〒 050-8585 ) 北海道室蘭市水元町 27 番 1 号		
	所属機関・部局・職名	室蘭工業大学・理工学部・ 学科 コース		
	氏 名	* * * * * T E L 0143-46- F A X 0143-46- E-mail @mmm.muroran-it.ac.jp		
実験場所	所在地	(〒 050-8585 ) 北海道室蘭市水元町 27 番 1 号		
	名称	室蘭工業大学工学部 実験室		
実験従事者	氏 名	所属機関・職名	宿主及びその取扱い 経験年数(注 5)	遺伝子組換え実験等 経験年数(注 6)
安全主任者が本実験計画の実施を適当と判断できる理由 (注 7)				

(様式 1-2 : 続き)

実験の目的							
実験の必要性及び概要 (注 8)							
組換え体の保管方法							
組換え体の実験終了後の処置							
本実験が大臣確認実験となる事由							
供与体・ベクター・宿主の組み合わせ(注 9)							
核酸供与体 (注 10)	核酸の種類 (注 11)	未同定核酸実験に係る単離 予定の核酸(注 12)	同定済み核酸 実験に係る供 与核酸(注 13)	ベクター (注 14)	宿主 (注 15)	封じ込め レベル (注 16)	備考

(様式 1-2 : 続き)

物理的 封じ込め に係る 施設・ 設備	位置(注 25)	
	構造(注 26)	
	設備(注 27)	

(様式 1-3) 一般的ではない核酸供与体、ベクター、宿主を使用する場合に記載

核酸供与体の特徴及び生物学的リスク(注 17)	
単離予定の核酸又は供与核酸並びにその産物の特徴及び性質(注 18)	
ベクターの特徴、伝達性、宿主依存性(注 19)	
宿主の特徴、遺伝子交換範囲とその機構(注 20)	
宿主-ベクター系の特徴、生物学的封じ込めの程度及び不活化の方法(注 21)	
組換え動植物作出時における、核酸導入の段階及びその方法(注 22)	
組換え体又は組換え体を接種する動植物の特性及びリスク(注 23)	
大量培養実験に係る組換え微生物、組換え動植物又は組換え体を接種した動植物の封じ込め措置(注 24)	

## 計画書記入要領

実験計画書は実験課題ごとに提出すること。また記入できない場合は別紙を添付し、該当項目に別紙番号を記入すること。

- 注1. 該当項目にチェックを入れ、継続あるいは変更の場合は前回申請をした年月日と確認番号を記入すること。
- 注2. 本計画における該当する項目すべてにチェックを入れること。
- 注3. 公的経費の有無について該当項目にチェックを入れるとともに、「その他」場合はその種類を記入すること(例：産学連携研究費)。
- 注4. 予定している実験実施期間を記入する。実験期間は5年を限度とし、さらに継続する場合は新たに申請すること。
- 注5. 宿主として使用する生物種の取扱い経験の経験年数を記入する。なお、宿主が微生物等(ウイルス並びにウィロイドを含む)、動物、植物を同時に含む実験計画の場合は、その宿主毎について記入すること。なお微生物等取り扱い経験が1年未満の者は、法、省令、及び告示でクラス2以上と規定されている微生物等並びにこれらに記載はないものの遺伝子組換え実験等安全主任者がクラス2以上と判断した微生物等を宿主とする実験の従事者となることはできない。
- なお「法、省令及び告示」とは「遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律」(平成15年6月18日法律第97号)及び「研究開発等に係る遺伝子組換え生物等の第二種使用等に当って採るべき拡散防止措置等を定める省令(平成16年1月29日文科科学省・環境省令第1号)並びに、「研究開発等に係る遺伝子組換え生物等の第二種使用等に当って採るべき拡散防止措置等を定める省令に基づき認定宿主ベクター系等を定める件」(平成16年1月29日文科科学省告示第7号)をいう。
- 注6. 遺伝子組換え実験等を経験した年数を記入すること。なお、大臣確認実験の場合は遺伝子組換え実験等経験年数が3年未満の者を実験従事者とすることはできない。
- 注7. 安全委主任者が本計画を安全に実施できると判断できるように記入すること。(場所、従事者の妥当性など)
- 注8. 大量培養実験、ヒトの組織(体液、毛髪、表皮及び粘膜等を含む)を用いる実験、組換え体を動植物に接種する実験、脊椎動物のタンパク質毒素産遺伝子を扱う実験が含まれる場合は、当該実験を行う必要性について記入すること。
- 注9. 核酸供与体、ベクター、宿主の組み合わせ毎にまとめ、また相互の関連を明らかにすること。
- 注10. 核酸供与体となる生物の種名又は系統名を記入すること。
- 注11. 供与核酸について、ゲノム核酸、相補核酸、合成核酸などの種類を記入すること。
- 注12. 未同定核酸実験のときに該当。核酸混合物から単離しようとする核酸の名称を記入すること。
- 注13. 同定済み核酸実験のときに該当。使用する供与核酸の名称(公表されたものであれば文献等)を記入すること。
- 注14. ベクターの名称を記入すること。
- 注15. 宿主の種名、系統名又は培養細胞の名称等を記入すること。組換え体を動植物に接種する場合には、接種に係る動植物を□で囲むこと。
- 注16. 組み合わせ毎に物理的封じ込めレベル及び生物学的封じ込めレベルを記入すること。

- 注17. 核酸供与体について、法、省令あるいは告示における物理的封じ込めレベル並びに必要な応じてその特徴、自然界における分布、病原性、寄生性、腐生性などの実験従事者に対するリスクについて記入すること。また、タンパク質毒素を産生する場合はLD50及び毒素遺伝子の構造について記入すること。
- 注18. 単離・使用する核酸又はその産物等についての説明を記入すること。また、同定済み核酸の場合は塩基配列又は同定に至る資料を添付し、その資料番号を記入すること。
- 注19. ベクターの由来、薬剤耐性、特異形質等の特徴、伝達性、宿主依存性について記入し、必要に応じて文献等の資料を添付して試料番号を記入する事。また、ウイルスベクターの場合は法、省令あるいは告示における物理的封じ込めレベルを記入すること。
- 注20. 微生物を宿主とする場合は、栄養要求性、薬剤耐性、至適生育条件等の特徴を、培養細胞をウイルスの宿主として使用する場合は、宿主内における宿主の核酸や共存するウイルス由来の核酸との遺伝情報の交換の可能性について記入すること。また、宿主に病原性、発がん性及び毒素産生性がある場合は、その説明についても記入すること。
- 注21. 認定宿主－ベクター系以外の微生物を宿主とする宿主－ベクター系を用いる場合には、宿主の生存能力、伝播性、不活化の方法と予測される不活化の効率を記入すること。また、ウイルスを使用する場合には、そのウイルスの伝播性に対する生物学的封じ込めの程度を記入すること。
- 注22. 組換え動植物を作出する場合に記入すること。卵、胚、種子、生体など核酸導入時の細胞の分化段階及び導入方法を記入すること。
- 注23. 組換え又は組換え体の接種により新たに獲得することが予想される形質について記入すること。感染性、病原性、寄生性、腐生性又は毒素産生性等の形質が変化すると予想される場合は、その旨明記すること。
- 注24. 大量培養実験、動植物を用いる実験の場合に記入すること。培養、飼育、栽培時における漏出、逃亡及び飛散防止に係る管理方法、並びに種子、使用水、排泄物等の不活化等と封じ込め方法について記入すること。
- 注25. 実験室又は実験区域の位置、実験設備・装置等の配置を図示し、機関内の安全委員会による認可年月日について記入すること。
- 注26. 実験設備の構造について図示し、施設(実験室など)全景と安全キャビネット周辺部(安全キャビネット中心点から半径2メートル以上)の写真を別紙に添付すること。写真は複数枚であっても良い。
- 注27. 名称を記入した施設並びに設備の写真を別紙に添付すること。